

桃ちゃんが
がんばって
いのか!?



Adult only





家

表紙	イラストレーション	流一本	
中扉	イラストレーション	流一本	
目次			2
こみつく (ガールス&パンツァー)		流一本	3
SS ヒメゴト (ガールス&パンツァー)		白朧	15
あとがき&奥付			





か…あ…ああ
杏…に
あんな気を
つかわして
しまつて…

今度の寄送ご
息抜きも
しよきたら



はあ

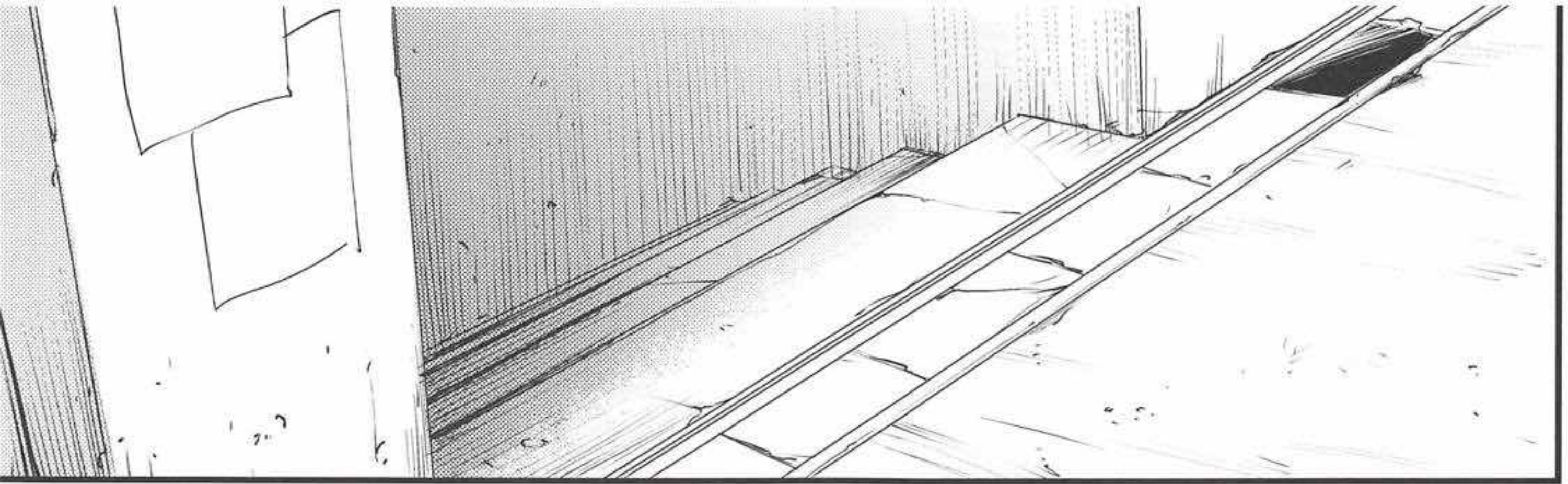
私は一体
なにをやっ
てるんだ？



な

なんだ？

特別セミナー
30分
無料
エステ100
○現代ストレスを感じるあなたへ
○生まれ変わりたいあなたへ
○常にリラックスしたいあなたへ

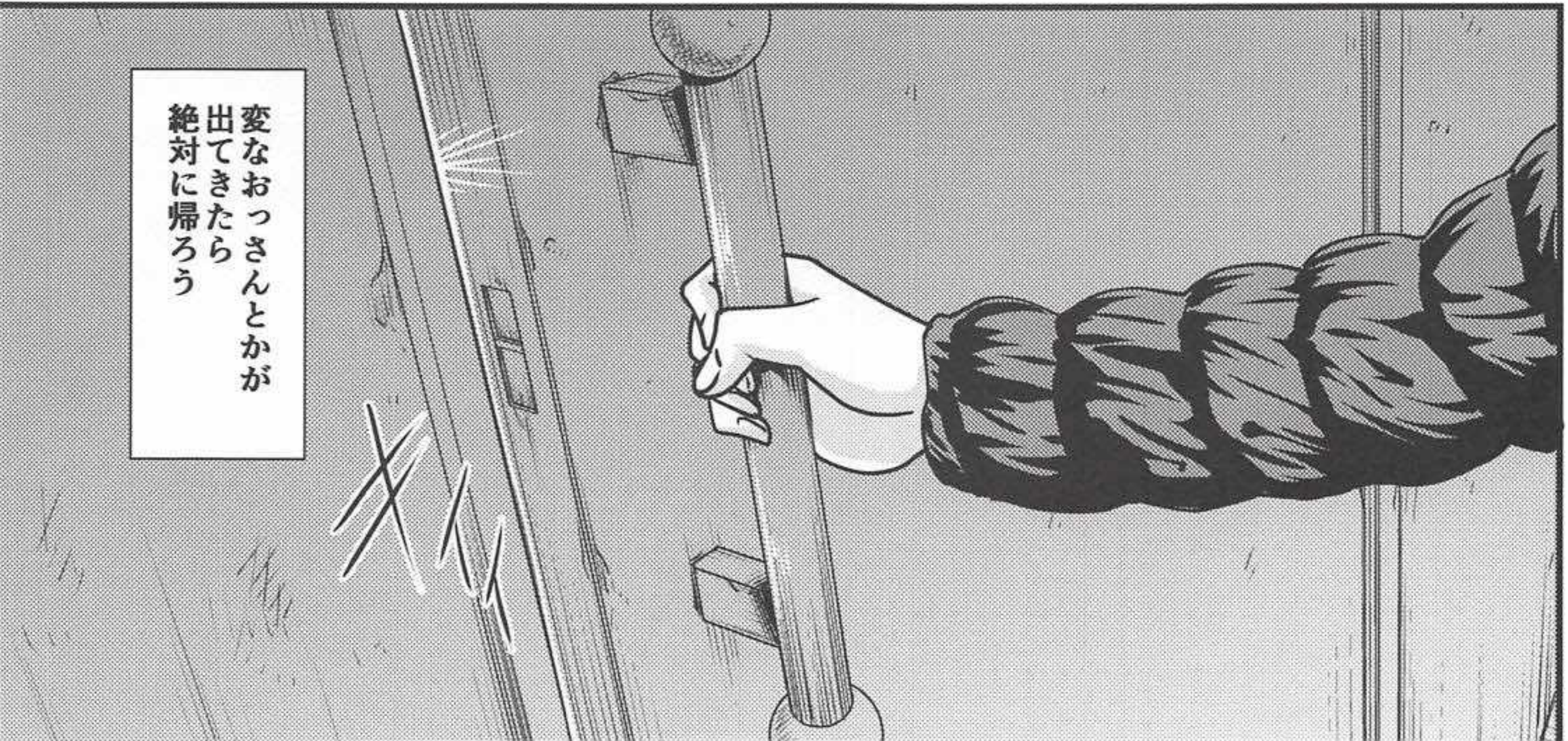


帰るか…

でもここまで来て…



変なおっさんとかが
出てきたら
絶対に帰ろう





ありがとうございます
ございます

あ…あの
広告を見て…

ほっ



カロッ

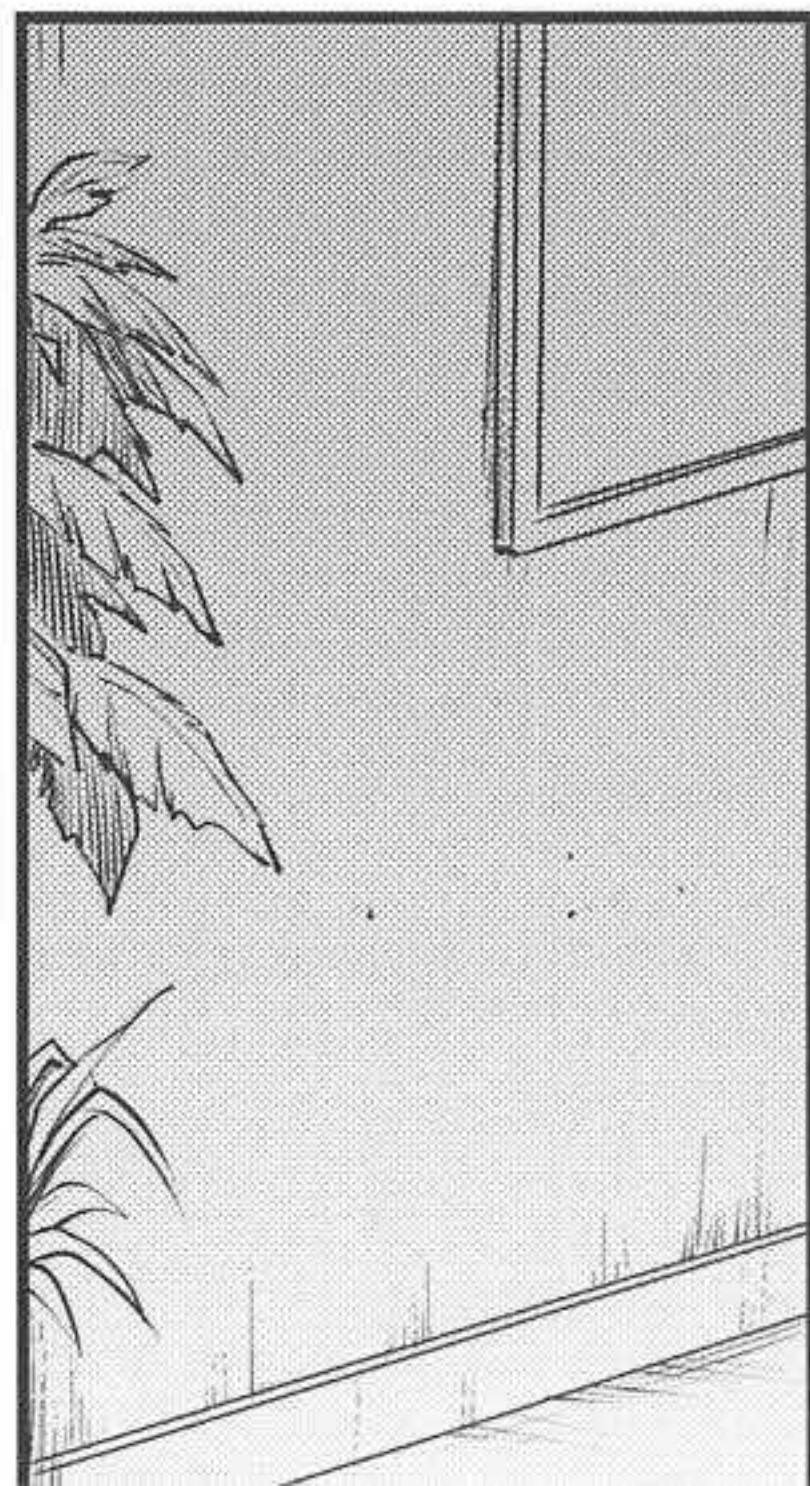
カロッ

いらっしやいませ
お一人ですか？



それでは
こちらの方に
お着替え
下さい

はい



え？

ん…これに？

リラックスしてて
下さいね

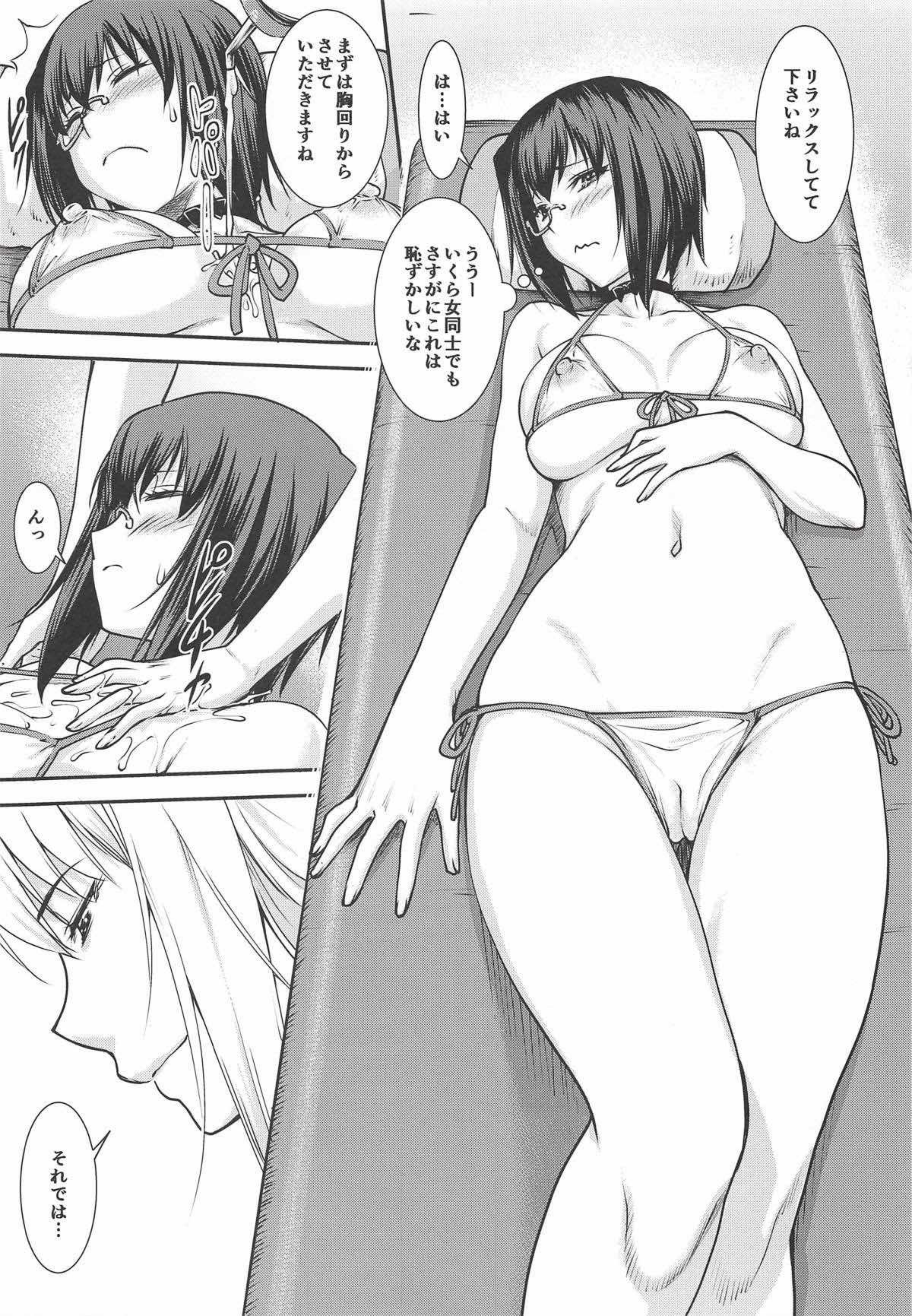
は…はい

まずは胸回りから
させて
いただきますね

ううー
いくら女同士でも
さすがにこれは
恥ずかしいな

んっ

それでは…



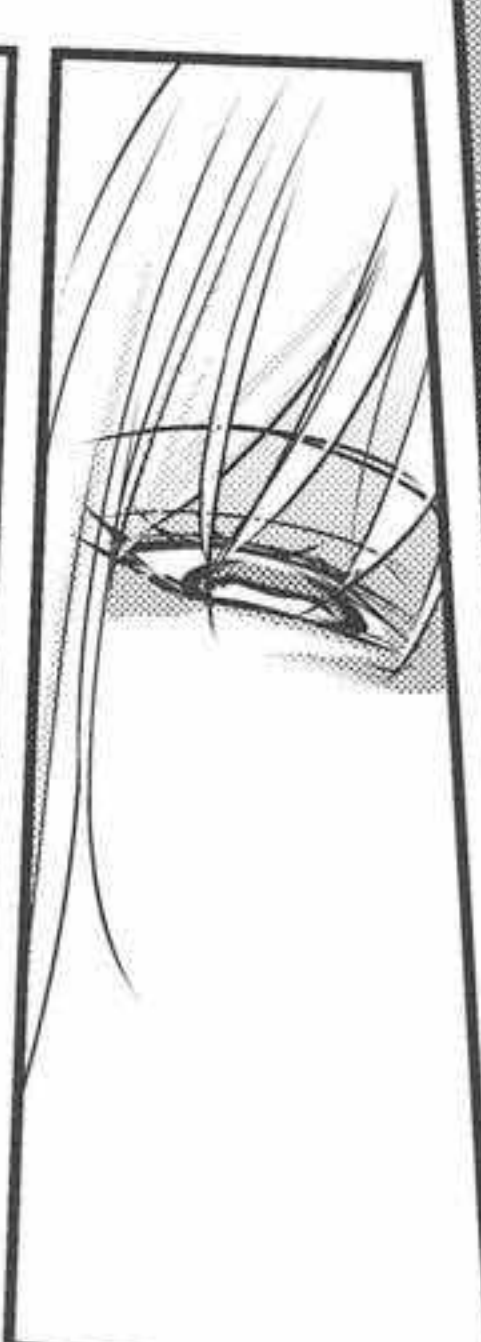
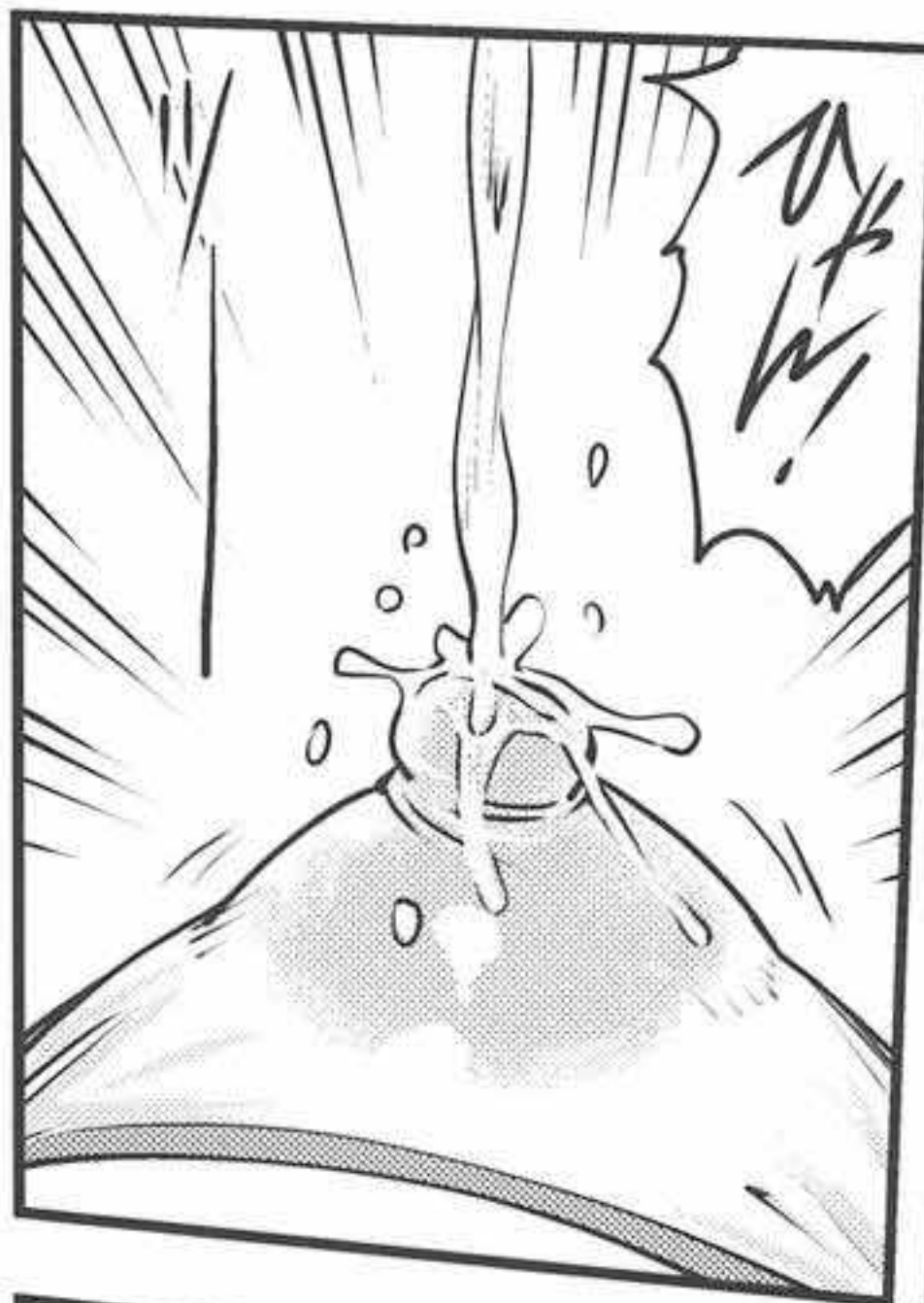


ローションの
所為か
ずいぶん体が
熱くなるな



これだけ大きいと
肩も凝るでしょう？

ん…
はあ



何やって…

えっ？
ちよっ…



あなたの乳首
すてきね

こんなにも
勃起してる♡

ひゃううっ

じわ

ちよっ：
ちよっと

私…こんなことを
してもらう
つもりなんて…

ん…



やっぱり

知らずに
来ちゃったのね

そんな…

あっ

でも安心して
ちゃんとお客様の
ご要望通り
心も体も満足させて
あげますから

あん♡

やっ

それじゃあ次は

ふあ？

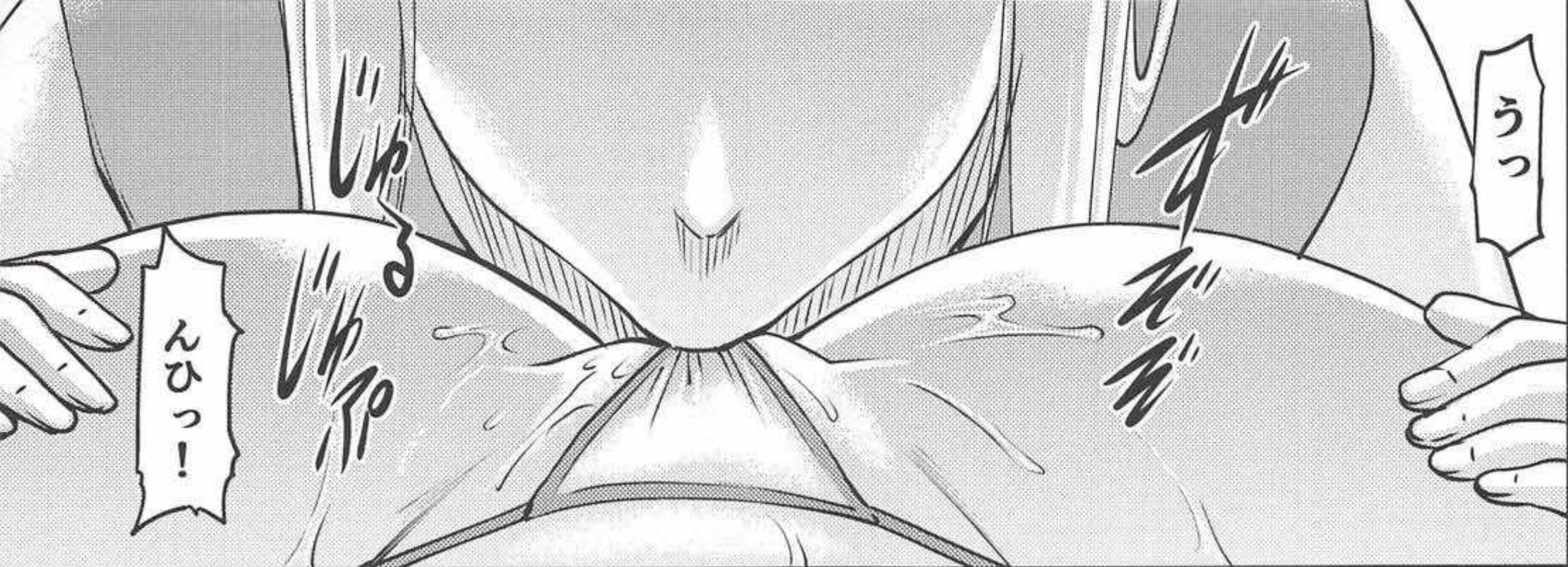
あら

こっちはもう
勃起してるのね

あっ！

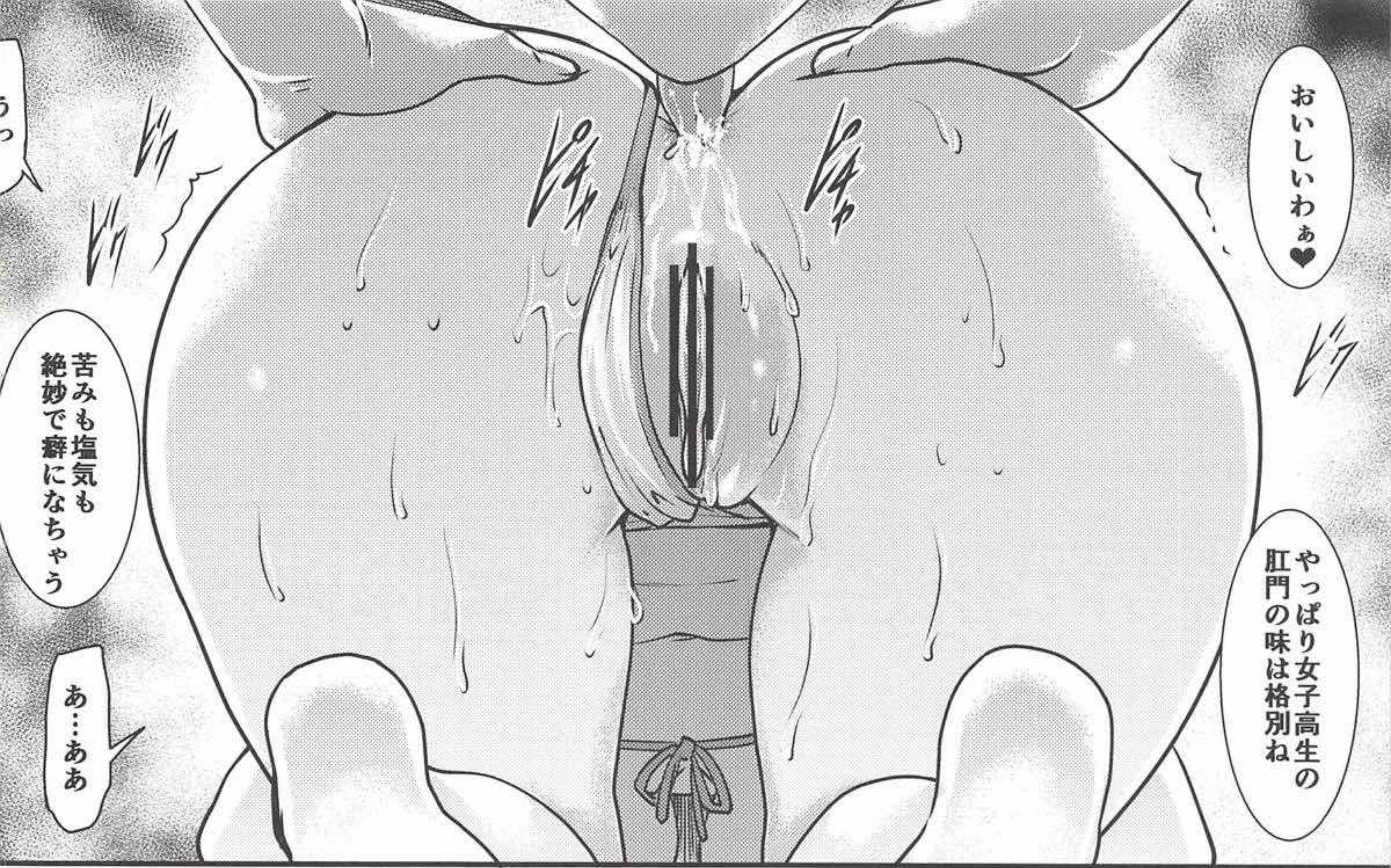
すこいわ

クリトリスが
乳首と同じくらい
大きくなってるわよ



お○んこも
すっかり
発情してるわね

でも
まずは...



おいしいわぁ♡

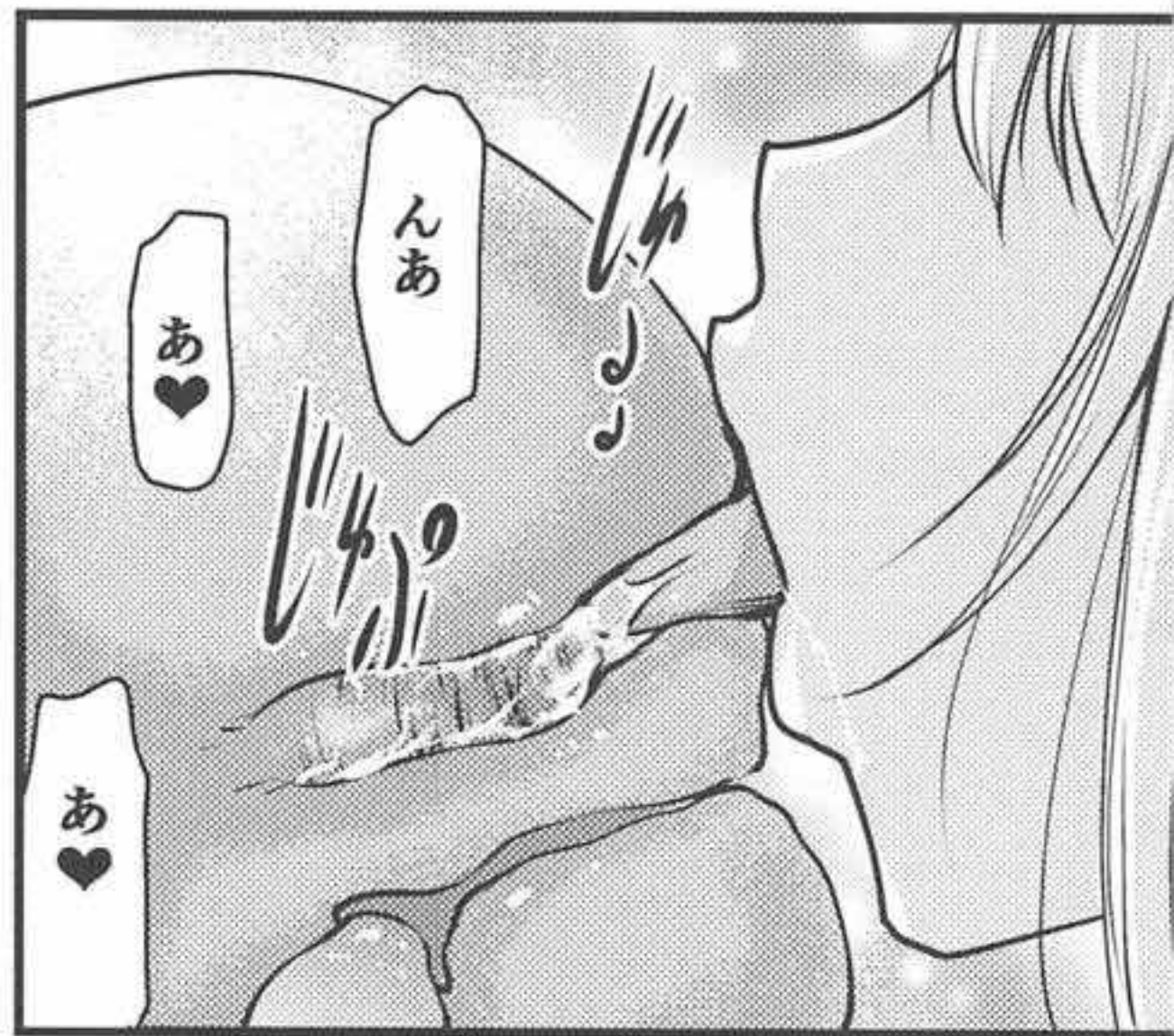
やっぱり女子高生の
肛門の味は格別ね

苦みも塩気も
絶妙で癖になっちゃう

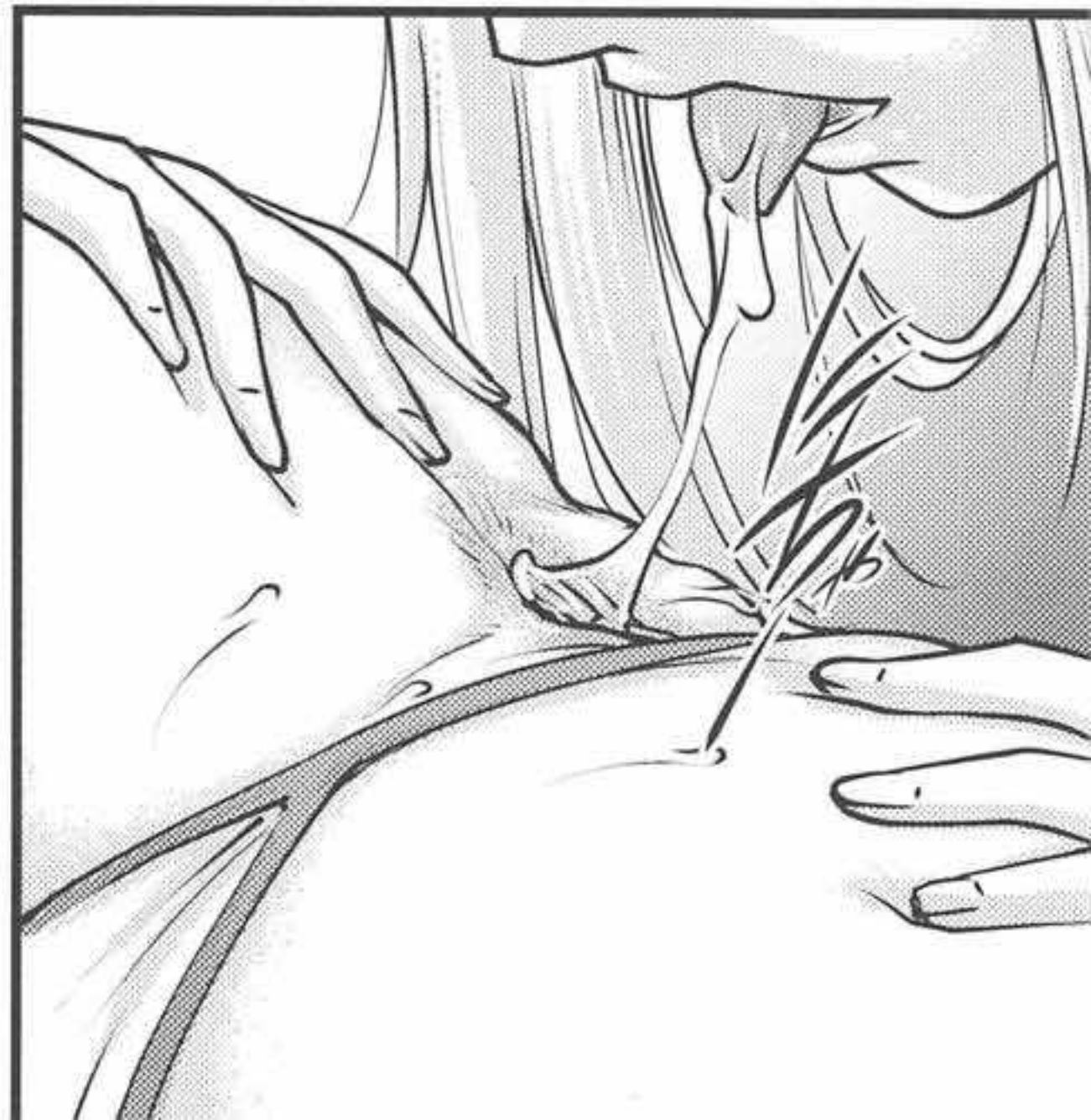
あ…あぁ



もっと奥から
とびつきり苦い
腸液を出して
ちょうだい



お…お…





あなたの様に
うまく自分を
認められず
立ち止まって
しまう人が



よくいるんですよ

あ♡

あ♡



河嶋桃さん

私が

変えてあげますよ
自分の全てを
肯定できる女に

!?

パッ
トッ

「おはようございます」

西住まほは、後輩からの挨拶に笑顔で返す。

「おはよう」

「少し顔が赤いようですが大丈夫ですか？」

後輩の目から見てもまほは高揚した顔色だった。原因は制服のスカートの中ではあるもの。決して知られてはいけないものがまほの中で蠢いていた。

まほは、後ろ手でスカートを押さえながら椅子に座った。座る動作で膣奥のローターが膣壁を刺激し子宮が疼く。

蜜液が溢れてくるのがわかるが、吸い取ってくれるショーツはなかった。

しっかりと膝を揃え、襟から胸が覗かないように背筋を伸ばして姿勢を正す。緊張と興奮で乳首とクリトリスの勃起が収まらない。身じろぐたびに乳首が裏地に擦れて刺激が走る。

授業中にローターが動き始め、しばらくして止まる。間隔はまちまちで連続でオンオフされるときもあった。

まほは疲弊していた。ローターが動くたびに悲鳴が上がりそうになる。下腹は緊張しっぱなしで、ローターの位置は子宮口に触れるほど奥まで上っていた。

ローターの不規則な振動に翻弄される。子宮口が揺すられ、甘い快感が襲ってくる。何度も繰り返され、快感の濃度は増し深みに嵌

っているようだ。

屋上のドアが細く開き、まほが身体を滑り込ませるように入ってきた。熱い身体が男のほうへ倒れこみ抱きついてくる。

「もう……、ダメッ……、ローターじゃ、いきそうなのに、いけない……」

顔を男の胸に埋めながら、苦しげに言葉を紡ぎだす。足はガクガクと振るえ、熱い吐息が漏れ出していた。

「胸を見せて」

男の優しい声が耳元に囁かれる。

まほは、その言葉に頷くと、ブラウスに細い指を掛けゆっくりと捲りあげる。ノーブラで抑えるものがない双丘が零れ落ちる。

彼女は小刻みに震えていた。赤く膨れた乳首の根元で赤い糸が蝶々結びにされて揺れている。男は糸を解き、乳房を揉みしだいた。

「あッ、ああッ……、だ、ダメッ」

まほの顔は陶酔し高揚していた。

男は、まほの足元にしやがみこみ、スカートを巻くりあげ、巻きつけて固定するとノーパンの秘所が現れた。

羞恥と風に晒されて身体をすくめる。赤い糸で根元を縛られたクリトリスは勃起して赤く充血していた。ゆっくりと糸が解かれ、二本の指で弄び始める。

激烈な反応が返ってきた。身体が震えだした。

「あッ、ああッ、ダメッ！」

尿が漏れ始める。綺麗な放物線を描き飛んでいく。

「い、いやッ！」

まほは膝を折り、和式スタイルで排尿が続く、止めようと必死なようだが、解放された尿は止まらず続けられていく。

緩んだ膣口からローターも零れ落ち、しばらくしてようやく排尿

が止まり、まほは放心していた。

男が腕を引き、床に溜まった尿の水溜りから離す。シヨックから立ち直れないまほはされるがままに移動される。

彼女の内股は蜜と尿で汚れていた、ハンカチで男がゆっくりと汚れを拭き取っていく。

「や、やめて……」

上気した頬、涙で濡れた瞳、恥らって振るえる様もまほに彩を加える。

落ちたローターを拾い、まほの細い指がローターを預けると、股間へと誘導する。男は舐め上げるように股間を見上げた。まほの指が、ローターを秘唇に押し込む所を見つめていた。

彼女の秘部は、赤く充血して猥雑さを増していた。ラビアの中央、秘裂の真ん中に押し当てられたローラーが、まるで膣口に食べられているように沈んでいく。

「んッ」

まほは、せず字を弓なりに反らしながら伸び上がる。

「奥に……、入った」

「では……」

男は確認のためにリモコンのスイッチを入れる。

「あッ！ はッ、はあんッ……、ん、んんッ！」

まほは足を踏み替え、腰を回転させて悶えた。ローターの振動がまほを翻弄し、隠微なダンスが披露される。

膣奥で振動するローターは、子宮ごと軀を揺さぶって、脳随まで響かせる。

絶頂に達しようかいう所でローターの振動が止まる。まほはイク寸前で止められ不満と欲望が募る。

「ローター、出して」

「はい……」

まほは甘いため息をつき、意識的に緊張を緩め、下肢の間からローターが引っ張りだす。

男の股間のはち切れんばかりに隆起しており、まほはつい凝視してしまふ。

ゆっくりとまほの目の前でファスナーを下ろし男根を引っ張り出した。

まほは甘い笑みを浮かべ、男根の根元を両手の指で持ち、舌を這わせる。

彼女の赤い舌が、男根を舐めてる様子が艶かしく男の視界を奪う。堪らなくなったのか、ブラウスのボタンを外し、乳房を外気に晒す。汗ばんだ胸の谷間に肉茎を挟む。

「ああッ、はあッ、ん、はああッ」

自分の乳房を押し揉む手に力が入る。男は乳首に手を伸ばし、絶え間なく弄ってくる。秘部が熱く火照りだしラビアが疼く。

「熱いッ、はああッ、ん、くッ！」

まほは顎を引き舌を出して、男根の先走りを舐め取るように亀頭に舌を這わせた。先端の尿道口に舌尖をこじ入れるようにして左右に掃く。

「うッ、ううッう！」

突然男根が大きく振るえ、精液を振りまいていく。噴き出した精液は顎や胸などを白く汚す。吐き出した男根はなおも吐き出そうとしていたが、オスの匂いに当てられたまほは、男根を啜え精液を口腔内に溜め嚙下していく。

「うッ……、ううッ」

まほの口淫は続き、張りがなくなった男根を舐め回している。中々もとの怒張とまらない男根に名残惜しそうに舐める。

新しい刺激を求めて男がまほに耳打ちすると、まほは息を呑んで恥ずかしげに俯いてしまった。

龟头のかりが膣壁の狭い部分を擦りながら往復する。突きこむにつれて感触が代わるまほの膣壁を味わいながら腰を突き入れていく。数度動かした後、わざと動きを止めて様子を伺う。

「う、動いてッ、も、もう……、じ、焦らさ……ないでッ」

まほが背筋を反らせながら、吸い込むように膣壁が蠢き、まほの軀がペニスを欲しがっていることを認識する。

「うッ、うッ」

男は引きずられるように、奥へと突きこんだ。子宮口を突いた瞬間、熱い蜜が分泌される。まほの背中が震える。指先が力強くフェニスを掴む。なおも往復を続けるとまほの体の震えが大きくなっていく。

「イ、イクッ！」

軀を弓なりに反らし、筋肉が収縮し、臀部が突き出され、膣壁はよりペニスを取り込むように締まってくる。

覆いかぶさるように男が背中からまほの体を包み、乳房を握りしめる。

「い、いやッ、もう、もうッ」

絶頂に悶えているまほの腰を、抱え込んで持ち直す。そのまま男根を押し入れる。

ペニスが深く収まるたびに、乳房がフェニスに押し付けられ、火照った軀がフェニスと風で冷やされる。

際限なく襲い掛かってくる快感の波に翻弄される、脳裏で弾けるような感覚が襲い、再度絶頂へと押し上げられる。

「だめッ、うッ、イクッ！」

「ううッ、ん」

まほの尻と下腹部が当たる音が鳴り響く、乳房はぐいぐいとフェニスに押し付けられ、互いの絶頂のタイミングを合わせるように、どんどん激しくなっていく。

頬と乳房をフェニスに押し当て、絶頂に悶え捲る。全身が性感帯のようになっており、冷たい風も刺激を与えてくる。勃起しっぱなしのクリトリスにあたる陰囊の感触も心地いい。

「イクッー！」

絶頂に達しているまほを見下ろすと、制服に包まれた肢体がある。自分との結合部に視線をずらすと、男根がはまり込んでる秘部の上に、アナルが収縮してるのが見える。

膣壁が締まり、トドメとばかりに突き入れ、我慢していたものを解放する。精液を噴き出すペニスは膣奥深くに浸入し、欲望を垂れ流した。

「あ、熱いッ！、ひ、ひいうんッ！」

体を反らしたまほは脱力したかのようにフェニスに寄りかかってしまう。男は慌てて腰に手を伸ばし体重を支える。

まほは腰と結合部の支えでかろうじて立ってる状態となっていた。

「だ、だめ……、もう……」

ゆっくり体を横たえながら、結合部からペニスが抜かれる。膣口から溢れた精液が内股を伝い落ちていく。

風に曝されながら、まほは下腹部を守るように両の手を置き、目を閉じていた。

終幕

あとがき (&グチ)

くろうさぎ このたびはお買い上げありがとうございます。
白朧 大雨からの酷暑で7月は辛かったですわ。
くろうさぎ 盆地の暑さはシャレにならんよ。
流一本 ガルパン最終章の第二話が2019年6月予定だっさ。
白朧 ほう、Fate/stay night [Heaven's Feel] の第二章は2019年1月
だそうだ。
くろうさぎ 宣伝乙! 観に行くのか?
流&白朧 たぶんな。
白朧 けど、完結するのはいつだろうな。あと2月のシティーハンターと
かコードギアスも気にはなってる。
くろうさぎ 懐かしいシティーハンターなんてやるのか。

8月某日
ヒロアカ劇場版を観に行こうかねえ

奥付

発行 リーフパーティー

発行日 2018/8/11

発行人 くろうさぎ

ホームページアドレス

<http://www.ob.aitai.ne.jp/~carmin60/>

印刷所

大陽出版様

18歳未満の閲覧禁止・無断転載

インターネットなどへのアップロード及び公開の禁止



どっち？

A. いかんでしょ

B. ええんやで



LeLe!ぽんぽ

VOL.33